

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02707

研究課題名（和文）地球市民の育成を目的とした図画工作・美術科の異文化間カリキュラムの国際協働開発

研究課題名（英文）International Collaborative Development of an Intercultural Curriculum for Art Education to Develop Global Citizens

研究代表者

中村 和世（Nakamura, Kazuyo）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・教授

研究者番号：20363004

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「図画工作・美術科の特性を生かしたどのようなカリキュラム・学習指導が、地球市民教育で求められるグローバル・マインドの育成のために効果的であるのか」を学術的問いとしている。図画工作・美術科の特性を生かした異文化間学習を通して育まれる基本的な資質・能力は、異文化価値システムに対する感受性や感情移入力をベースにした異文化間コミュニケーションにあることを示し、図画工作・美術科を通じた異文化間学習の原理の明確化を図り、日・米・オーストラリアの小中高等学校16校との国際協働によって開発した異文化間学習の効果検証をアクション・リサーチを通じて行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化が進展する今日において、地球市民を育成する図画工作・美術科のカリキュラム・学習指導の開発が国内外で求められている。異文化価値システムに対する感受性や感情移入力を養う芸術の特性を生かした図画工作・美術科の異文化間学習の原理が明らかになれば、地球市民教育の質的向上に資することができる。

研究成果の概要（英文）：This study asks the academic question, "What kind of curriculum and learning instruction that takes advantage of the characteristics of arts is effective in fostering the global mindset required in global citizenship education?" The basic qualities and abilities nurtured through intercultural learning utilizing the characteristics of arts and crafts and art studies are found in intercultural communication based on sensitivity and empathy for different cultural value systems, and the principles of intercultural learning through arts and crafts and art studies are clarified, and the effectiveness of intercultural learning developed through international collaboration with 16 elementary, junior high, and senior high schools in Japan, the U.S., and Australia is examined through action research.

研究分野：図画工作・美術科教育

キーワード：地球市民 図画工作・美術科 異文化間コミュニケーション 国際協働 アクション・リサーチ 学習指導 カリキュラム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

平成 29 年度の学習指導要領改訂に向けて出された文部科学省「教育課程企画特別部会 論点整理」に示されるように、「グローバル化が進展する社会に、どのように向き合い、どのような資質・能力を育成していくべきか」が学校教育の課題となっている。この課題に関する国際的動向として、ユネスコや 21 世紀型スキル・パートナーシップ (通称 P21) 等が、地球市民教育に関する枠組みを打ち出していることが挙げられる。その中で、異文化価値システムに対する感受性や感情移入を養う芸術教育の役割は着目されているものの、国内外において、図画工作・美術科のカリキュラム・学習指導の開発はまだ着手されていない。また、地球市民に求められる芸術の資質・能力について各国の研究者・教師間で共通理解がないまま、教育実践が行われている現状がある。

### 2. 研究の目的

本研究は、「図画工作・美術科の特性を生かしたどのようなカリキュラム・学習指導が、地球市民教育で求められるグローバル・マインドの育成のために効果的であるのか」を学術的問いとし、以下の 3 点を明らかにすることを目的とした。

(1) グローバル・マインドの育成のために、図画工作・美術科の特性を生かした異文化間学習を通して育まれる基本的な資質・能力とは何か。

(2) 図画工作・美術科を通じた異文化間学習は、どのような原理によって進められるべきか。

(3) 日・米・オーストラリアの小中高等学校 16 校との国際協働によって開発する異文化間学習は、グローバル・マインド育成の点から、どのような効果があるか。

### 3. 研究の方法

研究目的 (1) に関しては、12 か国の美術教育スタンダード、ユネスコ、オックスファーム等によって示された地球市民教育に関わる資料を分析した。また、20 世紀に世界に先駆けて地球市民の育成を目的とした美術教育を進めたジョン・デューイ等の進歩主義教育者の理論と実践について史的研究を行い、民主主義を基盤にした異文化間学習の在り方を検討した。この史的研究に関しては、フィラデルフィア市にあるバーンズ財団文書館を中心に調査を行った。

研究目的 (2) に関しては、日・米・オーストラリアの小中高等学校 16 校と地球市民を育成する図画工作・美術科の異文化間学習を国際協働で開発し、研究協力者である教員 16 名に対してインタビューや意見交換を行い、効果的な学習指導法の明確化を図った。

研究目的 (3) に関しては、研究協力校 16 校のうち、米国から 3 校、日本から 4 校の協力を得てアクション・リサーチを実施し、異文化間カリキュラムの児童生徒への効果を測った。534 名の児童生徒を対象とした事前事後の質問紙調査とともに、作品交換を通じた異文化間学習に関するケース・スタディによる質的研究を行い、児童生徒の変化を測定した。また、教育研究者や学校教育に携わる教員等と広く意見交換して、本研究で開発したカリキュラム・学習指導の課題などを検討するため、研究協力者であるシカゴ大学実験学校から小中学校の教員 3 名を広島大学に招聘し、日本デューイ学会第 66 回研究大会で公開シンポジウムを開き報告会を実施した。

### 4. 研究成果

(1) 図画工作・美術科の特性を生かした異文化間学習を通して育まれる基本的な資質・能力

多民族国家であるアメリカ、カナダ、オーストラリアが世界に先駆けて基本的な資質・能力の明確化を図りスタンダードの中に位置づけている。また、ユネスコは、21 世紀に入ってから、加盟国の行政官や有識者を招いて芸術教育の世界会議を 3 度にわたり開催して、地球規模での国際的な芸術教育の推進に努めている。現代社会の問題として道徳的行動の衰退が指摘され、芸術教育は、内省と判断の確立に不可欠な情緒的な発達を助けるがゆえに重要な役割を担うこと、また、芸術が特殊な方法で個人の発達、社会的結束、批判的考察を促すがゆえに、平和、寛容、相互理解の価値の強化に役立つこと、さらに、文化的認識を育み、その結果、個人的・集団的アイデンティティと価値観を強化し、文化的多様性の保護と促進に貢献することが認識されている。進歩主義教育者であるデューイ等が開発を進めた民主主義を基盤にした異文化間学習については、芸術は、宗派、人種、国家、階級などによる分裂化を消滅させる社会的機能があるとともに、個人の経験の幅を広げ、深化させる教育的機能があるという考えのもと、1920 年代から実験が進められた美術教育の異文化間学習の実態を明らかにした。

(2) 異文化間のカリキュラム・学習指導の原理

グローバル・マインドの育成を視野に入れた図画工作・美術科の学習指導は、芸術は国際理解のための世界共通語であるという考え方を踏まえて、無意識的または意識的な情意面を育てることを重点化する。その原理は以下のとおりである。

〔1〕世界共通語である美術作品を通じた異文化間での共感的体験の形成を教育の方法とする。

〔2〕相互尊重、寛容、共感性など、異文化間の相互理解を促進する知的・情緒的な心性を育む。

〔3〕自己表現を発達させるとともに、異文化間での共感的体験を通して、精神的なつながりを築き、グローバル・コミュニティの一員としての意識を形成する。

異文化間学習は、図1に示すように、異文化と出会う、文化的ルーツと結びついた自己表現を構築する、作品交流を通じて異文化の世界観を探究する、つながりを築き、グローバル市民としての意識を形成する、の4つの段階から構成される。

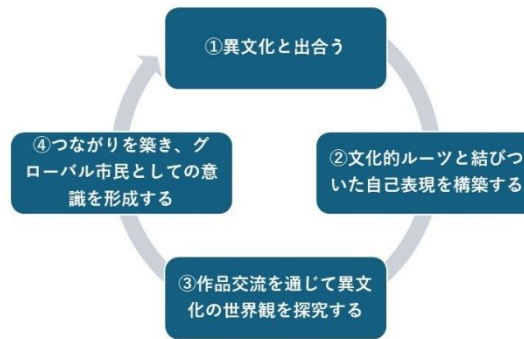


図1 異文化間学習の構成

### (3)異文化間カリキュラム・学習指導の効果検証

異文化間カリキュラム・学習指導を開発するアクション・リサーチでは、以下の研究質問に焦点を当てて効果検証を行った。

〔1〕児童生徒は、外国で生活する文化的に異なる他者との作品交換を通して、異文化間コミュニケーションを形成する視点をどのように発達させるのか。

〔2〕作品交換による異文化間学習を通して、児童生徒はどのような興味を形成するのか。

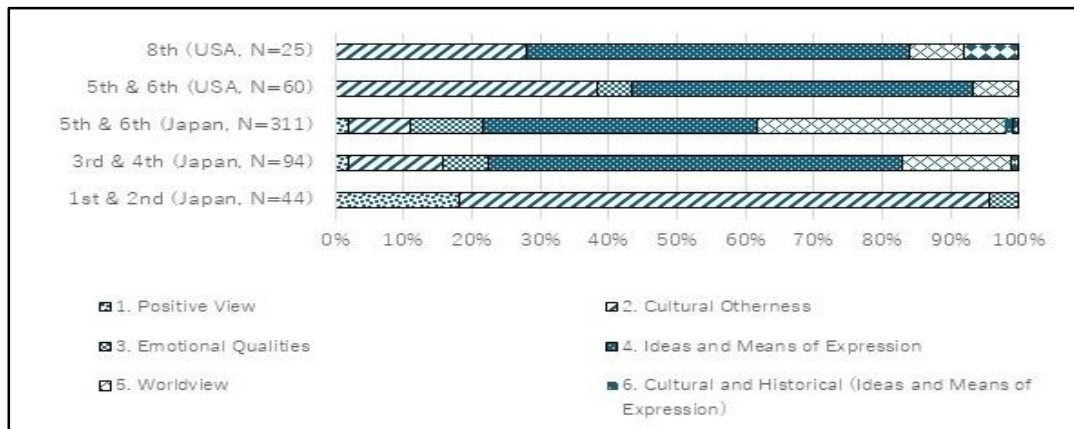


図2 児童生徒の異文化間コミュニケーションを形成する視点<sup>1</sup>

日米の児童生徒 534 名を対象にした質問紙調査から得られたデータの分析結果から、研究質問〔1〕に関しては、6つの視点による発達が見出された。それらは、1)肯定的な見方 (positive view): 他国の芸術や文化に対して肯定的な態度を形成している状態、2)文化的な他者性 (cultural otherness): 他国の生活様式や芸術の他者性を認識している状態、3)情緒性 (emotional qualities): 自国と他国の芸術の情緒の違いや類似性を認識している状態、4)表現手段 (ideas and means of expression): 自国と他国の美術における考え方や表現手段の違いや共通点を認識している状態、5)世界観 (worldview): 自国と他国の美術における世界観を認識している状態、6)文化・歴史 (考え方や表現手段) (cultural and historical): 他国の美術における考え方や表現手段の関係を、社会的・文化的・歴史的背景とともに認識している状態、である。図1は、児童生徒が作品交換を通じて異文化と接触する際に見出されるこれらの視点パターンの比率を、学年別、国別に示したものである。小学校1・2年生の77.3%が、文化の違いを認識する視点を獲得している。小学3・4年生、小学5・6年生、中学2年生では、40%以上の児童が表現手段を捉える視点を獲得しており、異文化コミュニケーションのための言語として美術を学ぶ能力が発達していることが示される。異文化間学習の後に児童生徒が新たに獲得した興味・関心のトピックには、1)異文化間コミュニケーション、2)制作方法の違い、3)海外美術作品の鑑賞、4)海外の生活習慣などが見出された。

### 引用文献

1. Kazuyo Nakamura et al., "Intercultural Eye for Art: Becoming a Member of a Global Community Through Arts-Based Exchange," In Community Arts Education, 275-286. Edited by Ching-Chiu Lin, Anita Sinner and Rita L. Irwin. Bristol: Intellect, 2023.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 アリソン・ポーリュー、芦田桃子、中村和世	4. 巻 65
2. 論文標題 21世紀におけるデューイの美術を通じた進歩主義教育	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本デューイ学会紀要	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中村和世	4. 巻 11
2. 論文標題 造形科における「自ら成長する力」の育成 進歩主義教育の現在－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学校教育	6. 最初と最後の頁 14, 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuyo Nakamura, Wataru Inoue, Gina Alicea, Shunroku Morinaga	4. 巻 1
2. 論文標題 Developing an Intercultural Eye for Art - The University of Chicago's Laboratory Schools and Hiroshima University's Affiliated High School 2019 collaborative action research -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Bulletin of the Graduate School of Humanities and Social Sciences, Hiroshima University Studies in Education	6. 最初と最後の頁 21, 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuyo Nakamura	4. 巻 53
2. 論文標題 A progressive vision of democratizing art: Dewey's and Barnes's experiments in art education in the 1920s	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Aesthetic Education	6. 最初と最後の頁 25,42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5406/jaesteduc.53.1.0025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Leah Morgan
2. 発表標題 Japanese-Indiana Student Art Exchange
3. 学会等名 The 2021 Art Education Association of Indiana Convention
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kazuyo Nakamura, Theresa Kang
2. 発表標題 Designing intercultural, transformative learning experiences in the art classroom through U.S.-Japan exchange
3. 学会等名 The 36th International Society for Education through Art Congress in Vancouver (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuyo Nakamura
2. 発表標題 Developing Intercultural Art Curricula in Schools for Building Mutual Understanding in the Global Age
3. 学会等名 Indiana University Global and International Studies Colloquium Talk (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuyo Nakamura, Gina Alicea, Allison Beaulieu
2. 発表標題 A Deweyan Progressive Approach to Designing Intercultural Art Curricula for Global Citizenship Education
3. 学会等名 Centennial Colloquium on Dewey Then and Now (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Kazuyo Nakamura	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Temple University Press	5. 総ページ数 17
3. 書名 The Barnes Then and Now: Dialogues on Education, Installation, and Social Justice	

1. 著者名 中村和世、行安茂、和氣節子、山本孝司、舩木恵子、高宮正貴、新茂之、岸本智典、西園芳信、新井保幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 14
3. 書名 デューイの思想形成と経験の成長過程	

1. 著者名 中村和世、直江俊雄、水島尚喜、新聞伸也、縣拓充、池田史志、大泉義一、若山育代、村田透、竹内晋平、笠原広一、大島賢一、渡邊美香	4. 発行年 2022年
2. 出版社 BookWay	5. 総ページ数 10
3. 書名 美術教育学 私の研究技法（美術教育学叢書第3号）	

1. 著者名 Kazuyo Nakamura, Hye-Seung 'Theresa' Kang, Wataru Inoue, Leah H. Morgan, Hisae Aoyama, Hannah Shuler, Atsuo Nakashima, Cheryl J. Maxwell, Takunori Okamoto, Mari Sankyo, Ching-Chiu Lin, Anita Sinner, Rita Irwin	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Intellect	5. 総ページ数 12
3. 書名 Community Art Education: Transversal Global Perspectives	

1. 著者名 中村和世	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 10
3. 書名 民主主義と教育の再創造ーデューイ研究の未来へー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Indiana-Hiroshima Intercultural Eye for Art <a href="https://easc.indiana.edu/news-events/_news/iu-hiroshima-art-exchange-project.html">https://easc.indiana.edu/news-events/_news/iu-hiroshima-art-exchange-project.html</a> IU Scholar Works Hiroshima Art Projects <a href="https://scholarworks.iu.edu/dspace/handle/2022/22711">https://scholarworks.iu.edu/dspace/handle/2022/22711</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分 担者	井上 弥  (Inoue Wataru)  (10201336)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・名誉教授    (15401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 日本デューイ学会 第66回研究大会	開催年 2023年～2023年
-----------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------